

Kodey Shojinaga '22: A Journey from Mid-Pacific to Big 12 Co-Freshman of the Year

コーディー・小路永(22年度)ミッド・パシフィックからビッグ12の新人準優秀賞獲得の旅

コーディー・小路永氏(22年度)は大学野球での新たなスターとしてビッグ12の新人準優秀賞獲得者としてカンザス・ジェイホークスに大きな波紋を広げています。彼のミッド・パシフィックからビッグ12への道のりは彼の才能、忍耐力と自己信頼の現れです。

彼の野球の道は彼が五歳の頃に始まり、高校時代には主にキャッチャーと内野手としてプレーし、多才さを発揮しました。彼は7年生の時にミッド・パシフィックに入学しました。彼と彼の家族はミッド・パシフィックはコーディー氏が成長できる場と考え、本校に惹かれました。

「野球で最も記憶に残る瞬間は二つ、一年生の時イオラニを3、4回破ったこと」「それともう一つのハイライトは四年生(シニア)の年に全州ファーストチームとILHファーストチームに任命されたことです」とコーディー氏は熱弁しました。

大学野球をプレーする機会が与えられた時、彼はカンザス・ジェイホークスを選びました。彼の決断は、レベルの高いチームの一員になり、アメリカ国内のトッププレイヤーに囲まれたいと言う希望から下されました。けれど大学生としてスタートは困難がないわけではありませんでした。新入生として入る前から彼は中手骨折から回復する必要がありました。そんな逆境にもかかわらず、リハビリと厳しいトレーニングを乗り越え、チームでのポジションを手に入れたのです。彼の根性は、カンザス大学のヘッドコーチ、ダン・フィッツジェラルド氏を感銘させ、それは彼がミッド・パシフィック校のダン・コーチのもとで養ったハードな仕事への倫理観を反映していました。

「初めは確定したスタート地点がなかったので、とても難儀でした」とコーディー氏は告げました。「それでも忍耐強く努力を続け、積極的な態度を保ち、毎日できる限り最高のチームメイトになることを目指しました」

コーディー氏にとって最も大きなモチベーションは彼の祖母です。彼女の励ましの言葉「不可能なことはない。それが可能である視点で物事を見る必要がある」は彼の思考とキャリアに対する意欲を形作ったと言います。

コーディー氏の決意と努力は、2023年5月に大きな成果をもたらしました。彼はシーズン終了時にアメリカ国内で最も優れた新人選手の一人として評価され、その結果、ビッグ12カンファレンスから共同新人選手賞を受賞しました。コーディー氏が賞を受け取った時、チームはビッグ12トーナメントの最中であり、彼の主な焦点は試合を終えることにありました。試合後、彼はこの達成に本当に喜びを感じることができました。

コーディー氏は言います。「あの賞を受けることは私にとって大きな名誉でした。カンファレンス内には優れた新人選手が沢山いる中で、自己犠牲と技術への献身を通じて私に何が達成できるかを実感出来た事は本当に驚くべき事でした。」

コーディー氏はカンザスでの旅を続けながら、永続的な影響を残すことを望んでいます。彼はすでに野球のBig 12の1年生として歴史に刻まれています。彼は友人やチームメイトに伝染するポジティブさ、自身の技術への献身、そして人生のすべては獲得されなければならないという信念で記憶されたいと願っています。

コーディー・小路永氏の旅は野球に限らず、抵抗力、情熱、そして努力によって何も不可能ではないという信念の物語です。彼のメッセージはすべての年齢の学生に響きます：大きな夢を抱き、一生懸命働き、偉大さを達成しましょう。